

各地区業況アンケート結果（2022年7月調査分）

（2022年7月26日）

全国鉄鋼販売業連合会

日頃より当会へのご協力厚く御礼申し上げます。さて、7月25日締切で、当会役員141名に対しこのアンケートを行ったところ75名の回答があり（回答率53.2%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。DI = $(A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、（数は回答実数）

1. 数量は伸びず金額増が続く状況

問1】貴社の6月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	12	11	25	10	16	74	72
比率	16%	15%	34%	13%	22%	DI-9	DI-10
売上金額/前年同月比	38	17	11	3	6	75	73
比率	51%	23%	14%	4%	8%	DI+104	DI+115

2. 収益良好、黒字75%

問2】貴社の6月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	32	24	15	4	0	75	72
比率	43%	32%	20%	5%	0%	DI+112	DI+85

3. いまだ低調な販売続く

問3】貴社の営業窓口から見て7月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向		2	33	15	4	54	-39	-24
民間建設向		12	34	13	2	61	-8	-10
自動車向		3	20	8	4	35	-37	-59
その他需要家向		5	44	13	2	64	-19	-18
仲間取引	1	2	34	16	6	59	-41	-53
計	1	24	165	65	18	258	-27	-31
比率	0%	9%	60%	24%	7%			

4. 先行き不透明な状況

問4】貴社における向う8月から10月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横這い	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測		22	37	10	6	75	73
比率		29%	50%	13%	8%	DI±0	DI+7

5. 鋼板類中心に過剰ぎみ変わらずD I 値プラスはH形鋼・コラムのみ

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	品種別	A	B	C	D	E		7月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-9	3	-10	-3	-6	-15	-17	-10	-10	-10	-3	-12	鉄筋用丸鋼		1	23	3	2	29	-21
14	25	14	11	6	-3	-7	-3	-14	-23	-7	-14	構造用丸鋼			25	5	1	31	-23
11	21	6	6	6	-10	-9	-9	-10	-6	-11	-17	平角鋼			30	5	1	36	-19
33	48	41	43	35	20	7	0	-10	-7	0	3	H形鋼	2	3	22	1	1	29	14
125	140	142	150	139	88	91	13	19	30	39	30	コラム		6	13	2		21	19
3	8	9	3	6	-11	-6	-15	-21	-11	-26	-30	小形山形鋼			28	6	1	35	-23
3	9	9	8	3	-11	-6	-18	-21	-12	-22	-28	中形山形鋼		2	22	7	3	34	-32
6	8	9	11	6	0	-6	-9	-9	-15	-19	-27	溝形鋼		3	23	7	1	34	-18
50	73	68	65	34	19	0	0	-4	-10	-6	-15	軽量形鋼C形		1	23	5		29	-14
39	63	33	39	27	-5	6	0	-6	0	0	-13	軽量形鋼広巾			15	2		17	-12
166	158	123	110	79	45	24	3	-41	-39	-33	-61	冷延薄板		1	15	10	5	31	-61
133	118	103	83	53	35	17	-17	-33	-20	-23	-44	熱延薄板		1	20	8	3	32	-41
162	145	133	127	97	59	47	21	-24	-30	-26	-41	表面処理鋼板		2	21	10	2	35	-34
169	164	126	109	80	47	15	-15	-27	-35	-31	-57	酸洗鋼板			14	10	4	28	-64
113	114	100	76	43	30	10	-13	-18	-14	-9	-33	中板			28	11	2	41	-37
102	95	90	83	67	53	26	-3	-5	-10	-23	-27	厚板			28	10	2	40	-35
70	86	68	68	52	35	26	9	18	-6	-17	-6	極厚板		3	10	3	1	17	-12
64	41	52	41	33	7	14	3	-7	-3	-13	-23	縞板			24	4	1	29	-21
57	73	83	71	64	21	16	0	-3	-3	6	-3	中径角		2	30	3		35	-3
42	58	58	32	38	23	6	-3	0	-14	-6	-6	ガス管黒		1	30	4		35	-9
49	61	61	39	38	19	13	0	0	-9	-3	-6	構造用鋼管			31	2		33	-6
70	72	64	55	43	21	12	-4	-12	-13	-13	-22	計	2	26	475	118	30	651	-23

6. 中小建築物中心に需要低調続き、価格転嫁に苦慮

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	(形鋼) 6月の最盛期も在庫販売が盛り上がらない結果でした。7月も状況に変化なく冴えない荷動きとなりそう。その中で値上げをお願いしており、非常に難しい局面である。
	B	スクラップの下落により、やっと価格上昇は止まった形となった。しかし、下がる要素はなく、上げ切らない市況の中で仕入高、販売安の苦しい状況が続く。
	C	一斉に動き出した感がある。今は工期が重なり忙しくしているが、今年の方は出尽くした感じで秋以降は心配である。
	D	見積り案件は少ない。信用不安が出てきた。
東北	A	見積りの引合いが例年より少なく、今後の展開は例年を下回る状況が想定される。その反面ファブは県外案件等の山積み有しており、足元の安い案件は断っているとの話も聞こえてくる。
	B	当地区は物流倉庫、工場等の物件しかなく、中小物件の数が少ない。
	C	(鋼管) 需要家向け物件の動きはあるが、一般店売りの荷動きは低調。

新潟	A	スクラップ価格下落に対し、鋼材市況は踏ん張っているが、海外との価格差が広がっており、注意しなくてはならない。特に鋼板の価格動向を注視する。
	B	荷動きは出てきているが、一時的なことなのか、全体をみると仕事の有無でお客様に差が出てきている。今後は与信も気を付けていきたい。
	C	中小案件の引合いが少なく、価格転嫁に苦戦している。
	D	H形鋼、コラムのメーカーロール状況は延びているが、厚板は順調である。予定していた建築物件が出始めているので、お盆過ぎ位まで、それなりの稼働があるのではないかと。
	E	構造用鋼の荷動きは7月に入り一層悪くなった。今回の価格改定はスクラップ安や顧客の製品値上げが遅れており交渉が難航している。
	F	現在の荷動きは好調だが、新規引合いは減少している。
	G	建築の地元案件は少ないが、首都圏案件を中心にファブの需要は好調に推移している。一方、製造業関連は部品調達難の解消が見えず低調となっている。
神奈川	A	在庫はやや過剰感があるが、今後の鉄鋼メーカーの値上げ傾向が止まらない可能性を考慮すると鋼材発注目論見が困難。各種エネルギーの値上げも懸念大。
	B	新規案件は価格の高騰もあり、実行までには時間が必要。強気の商売がいつまで続くのか心配である。
東京	A	荷動きは相変わらず低調。前年に比べても数量は落ちている。しかし、建築向けの加工品は好調。製造業についても減産調整とはいうが、大きく落ちているわけではない。定尺品は低調のままだが、秋口以降には回復の見込みもあると思われるので、今少しの辛抱が必要。
	B	薄板三品在庫に過剰感があるが、原因は自動車向けの在庫の滞留である。高炉メーカーは自動車向けの生産ができないので、その他の分野向けの納期を前倒ししている。予定よりも引き渡しが早くなっているのも過剰感の要因である。従って、在庫の過剰感も一過性のものと考え。高炉メーカーの値上げは待ったなしの状態、市中在庫の増減で再販価格を調整する余裕はない。
	C	(店売り) 価格について様子見が多分にあり、見積りはあるもののなかなか注文にならず、売上の方も減少している。(建設機械) ウクライナ問題もあり、生産も減少すると思われたが、向け先地を変更する等の対策により思ったほどの減少はなかった。
	D	再販価格転嫁のアナウンスを行い、在庫分の駆け込みがあったと見られる。
	E	(鋼管) 昨年6月はメーカー値上げ、供給タイト化、需要回復の三要素が重なり、市況は急伸した。対して今年6月は三要素のうちメーカー値上げだけである。しかし、メーカー値上げ額の大きさとスピードは昨年をも上回る。状況は異なるが市況はまた急伸する可能性が強い。
	F	薄板業界は一部を除き、需要低迷が継続している。上海のロックダウンも解除され、いい方向へ進んでいくものと思われるが、果たしていつ頃、実感できるのか全く予測できない。ここまで何とか黒字計上できているが、メーカーの大巾値上げ玉が今後どんどん入荷され、どこで収益状況が逆転するか。次の手をどうやって打つか。思案の為所である。
	G	上期は土木の動きもり、堅調に推移する見込み。7月より値上げを実施しているため、今後の荷動きは気になるところである。
	H	主力の磨棒鋼は未だ低調だが、一部の加工業者では9月頃からの増産に期待が持てる。
	I	鉄筋の置場在庫販売は6月まで良かったが7月に入り荷動きは良くない。
	J	6月の売上金額は前年同月比で横ばいだったが、この1年で市況が倍近く急騰したため実質は2割減位と言える。販売不振、在庫増、市況下落はメーカーの販価堅持で防止できるのか不安である。
	K	6月は物件受注で売上金額は前年比プラスだが、出荷量はガタ落ち、7月に入り、更に出荷量減少、コロナ前の4割減。引き続き経費の圧縮に努める。

東京	L	需要喚起がないことには市中相場もこのまま値崩れしていくと思われる。現に大口案件に至っては今年度以降、価格横ばいに留まっている様な話が散見されている。当然のことながら高炉メーカーの材料では価格実現が難しいため外材が相当量、市中に出回っているようだ。(汎用品に限る)
	M	客先で製造を行っているが、秋口以降の案件と先の納期分に手を付けていたため、秋口以降の仕事を心配している。また、客先工場内で海外製部品待ちの組立途中の装置が並んでおり、今後の海外の状況次第で製造ストップになってしまう可能性あり。状況を注視している。
静岡	A	スクラップ動向に反映し、民間案件でも鉄筋明細の出が良くない。需給状況の違いで多少の差はあるが、各品種の在庫過剰感は増し価格転嫁も足踏みしている。
	B	大手鉄鋼流通に伺ったところ、Mグレード以下の鉄骨ファブの第2四半期から第3四半期の仕事量は思いのほか少なく推移しているとのこと。地元工務店クラスの住宅物件は少なく、鉄鋼商品の価格上昇に加え、他の建築資材価格上昇は、消費マインドに多大なる影響があると思われる。鉄鋼メーカー、流通各社ともに需給バランスよりコスト優先ありきとなっていないだろうか。役人の様な鉄鋼マンは次世代の展望に疎いし、流通先、エンドユーザーとの共存共栄は望んでいるのだろうか。すべてはロシアのウクライナ侵攻後の事由ばかりで、おかしくないだろうか。もともと内需で国力をキープしている日本、貿易赤字とか、円安FX等でバタつくのはおかしい。信用調査会社も前3月期の各企業の取りまとめに忙しいようである。超大手鉄鋼加工流通の全国への出店数はすごい一言である。
石川		官庁物件はいつもながら年度初めは減少気味。北陸新幹線の上部工はほぼ完了に近いが下部周辺の侵入防止柵は不調続きで延長再入札が多い。北陸新幹線は敦賀駅開始が一年後になっているが、大阪駅到着が完成しないと中途半端で沿線の人たちは不満だらけ。やはり米原駅経由にしないとイケなかった。今からでも遅くないので着工すべし。国の方針は大きなミスである。
富山		鋼材入手難が解消され、建築工期が通れることは減ってきたが工場内機械設備の工期が2倍遅れも散見され始めている。建築業界などで新型コロナ感染拡大ムードが水を差している。
岐阜		工作機は好調。カバー用の薄鋼板は争って取り合いになっている。とてもついていけない。建築も中小物件のH形鋼でも競い合い。そもそもゼネコンが下げて物件を受注している。皆、まだ値上げしなければいけないのに少し下気味。「ガンバル」イコール「安受注」となっている。
大阪	A	(鋼製家具) 不需要期ということもあるが、物件がなく低調。 (建産機) 部品調達案の影響から減産。3～5割減。
	B	(鉄筋) 需要動向は順調。地域の特殊事情など、需要家の動向と信用問題を織り交ぜて鉄鋼部門における収益状況は順調である。
	C	商売は良くないが、今年前半は、ほぼ毎月同じ様な数字が並ぶ。ここへきてスクラップの価格が下がり続けているのが気になる。景況感は良くないのに物価が上昇するのも、そもそも不思議である。
兵庫		建築物の明細の集まりが良くない。
岡山		通常の2割減の出荷が続いている。在庫が増えすぎているので、買い控ええを考えている。県内コンビナートで多少の工事、修理の話が聞こえるようになった。
北九州		条鋼類においては、電炉メーカーのデリバリーが遅れているため、歯抜けが出ている状態。市中在庫が少ないので、販売価格を上げていきたい。

福岡	A	メーカーの大幅値上げと需要低迷により厳しい状況が続いている。市庫在庫は高いレベルで推移しており、実需は低調な分野が多く過剰傾向となっている。
	B	度重なるメーカー値上げの対応に苦慮している。メーカー値上げ幅のスライド値上げでは利益率も下がり、プラスαの値上げを得意先に相談しているが、なかなか難しい。メーカーも含め業界で考えていかなければならない問題である。